

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要

建物名称	(仮称)ケースデンキ亀貝店	
建設地	西区 亀貝字前田1466外	
用途地域	準住居地域	
建物用途	物販店舗	
竣工年	2013年9月 予定	
敷地面積	8,709.62 m ²	
建築面積	3,049.60 m ²	
延床面積	2,998.02 m ²	
階数	地上1F	
構造	S造	
評価の段階	竣工段階評価	
評価の実施日	2013年8月20日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{52}{39} = 1.3$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.3		バリアフリー	3.0
			維持管理	4.0
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.0		節水	3.0
			リサイクル材の使用	1.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

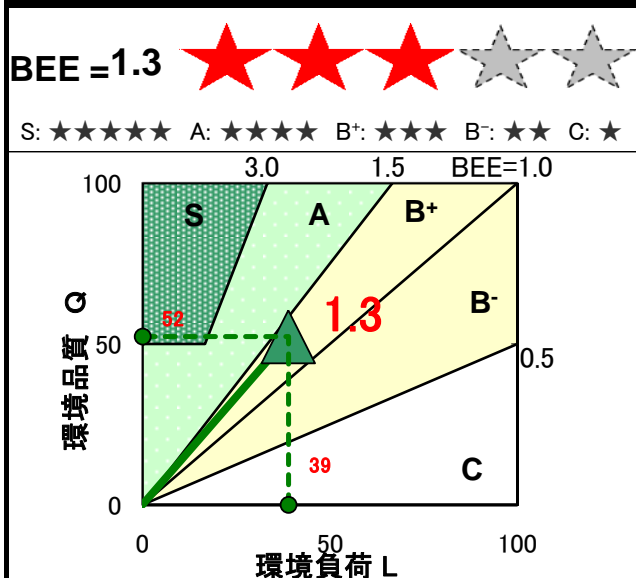
- 長寿命化の取組み
設備配管はメンテナンス・修繕等を考慮し天井配管計画とした。
- 自然エネルギーの取組み
敷地内には植栽を施す計画とした。
- 資源循環の取組み
衛生器具は節水型を採用。
- 新潟のまちなみへの取組み
植栽・駐輪施設・エントランス前のオープンスペース等を設け、地域性への配慮及び快適性の向上に努めました。

CASBEE®新潟

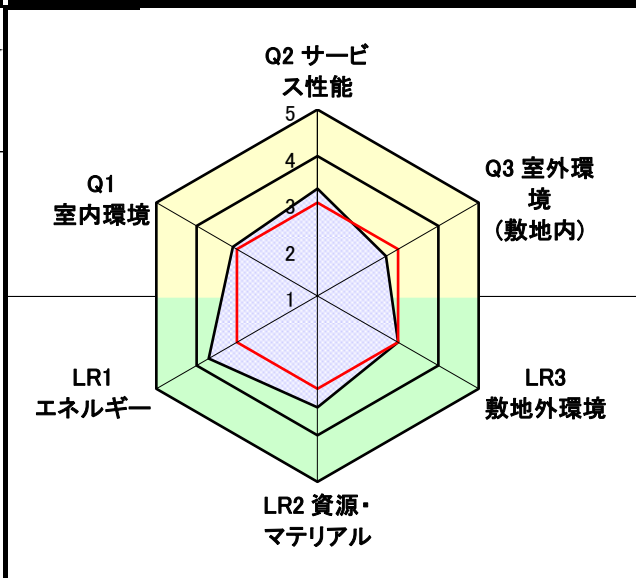
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

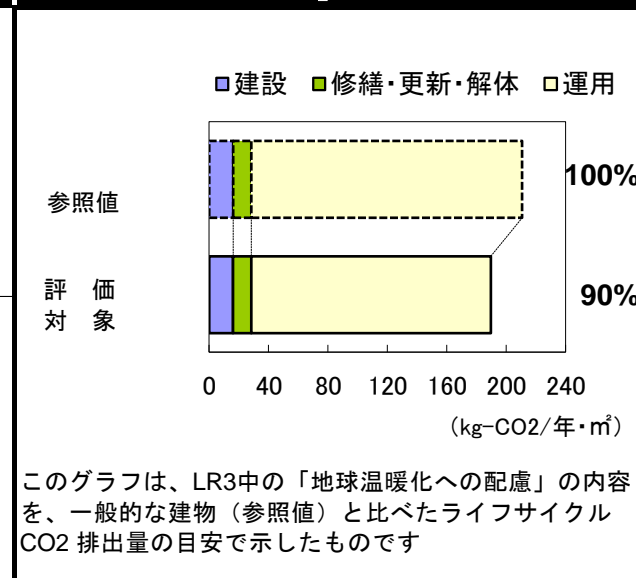
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



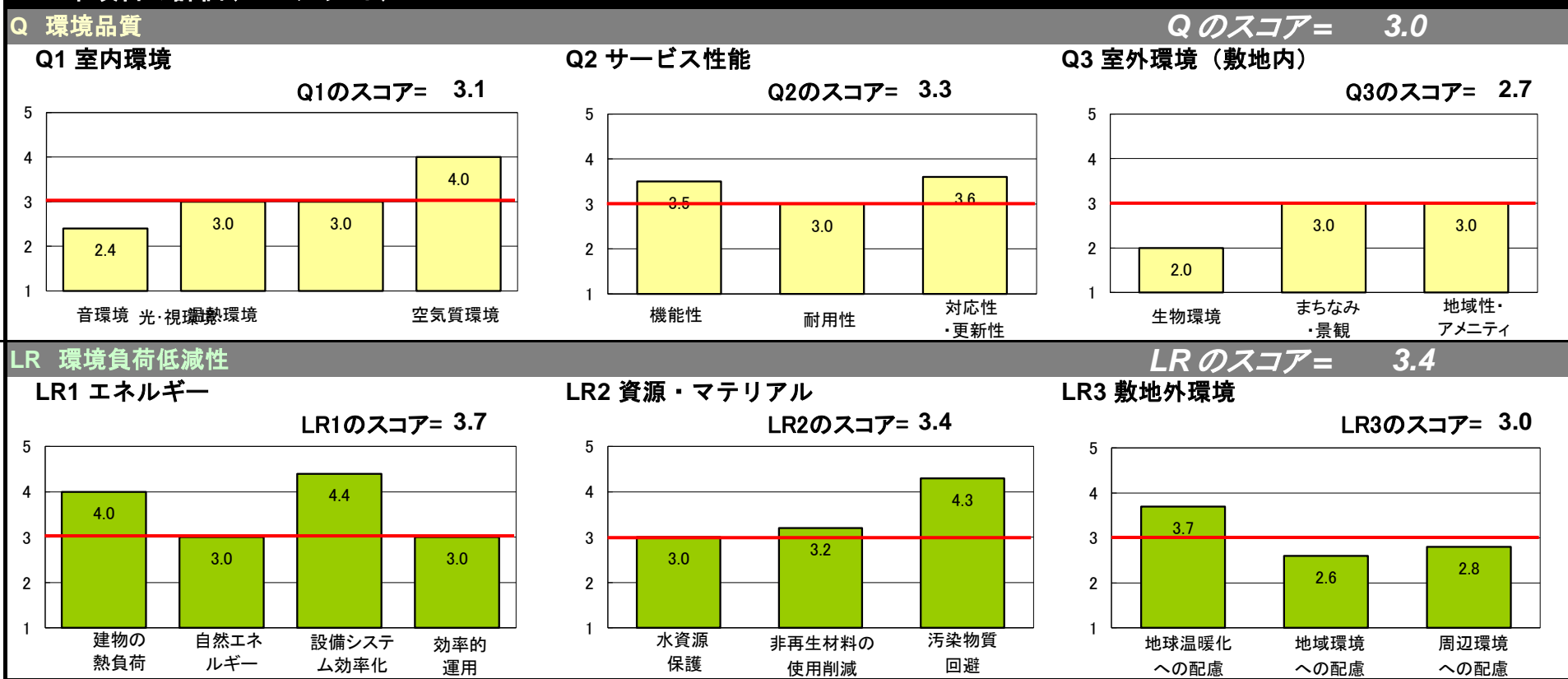
2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 清潔感のある店舗を目指し、耐久性・防汚性・清掃性への配慮を施した内装計画とした。 外壁部分の建具を必要最小限とし室内の熱損失を極力抑える計画とした。 節水型衛生器具等を採用し省エネルギーに配慮した計画とした。	その他 建設工事における廃棄物削減及びリサイクルを行う。
Q1 室内環境 バックヤードの床仕上材は耐久性を持たせる為、塗り床を施した計画としている。 又、内装仕上材はシックハウスに配慮した計画とした。	Q2 サービス性能 売場天井高さは4.5mとし、空間にゆとりを持たせる計画としている。又、エントランス脇には休憩コーナーを設け自動販売機の設置等、憩いの場として利用できる用配慮した。
LR1 エネルギー 高効率照明器具(LED照明の採用)、高効率空調機の採用。 照明計画、空調計画によりエネルギーを削減した。	LR2 資源・マテリアル 仕上材はシックハウスに対応しF☆☆☆☆及び告示対象外の材料を用いて環境・健康に配慮した材料を採用した。
	LR3 敷地外環境 営業時間外の駐車場の利用を控え、近隣への騒音、光害の低減に努める計画とする。
	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地外周部には植栽を施し敷地内の環境保全に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される